

## 『四国自然史科学研究』 投稿規定 (2024年3月改定)

## ○原稿の種類と内容

「四国自然史科学研究」に掲載する内容は、原則として四国地域（愛媛県、香川県、高知県および徳島県）を含む自然史科学に関する原著論文、総説、短報、採集記録などとし、同著者が過去に公表した論文とは異なるものでなければならぬ。発行は、原則として年一回とする。

## ○英文名称

Bulletin of the Shikoku Institute of Natural History とし、略称を Bull. Shikoku. Inst. Nat. Hist. とする。

## ○投稿資格

投稿は正会員、一般会員Aおよび学生会員に限るが、共著者に非会員を含むことができる。ただし、編集委員会が寄稿を依頼した場合はこの限りではない。

## ○原稿の受付

受付は、投稿原稿が本規定に適合した体裁で、ただちに印刷できる状態にある場合に限る。

原稿の体裁が投稿規定に則っていない場合には、編集委員会（後述）が著者に修正を求める。

## ○編集委員会と校閲者

編集委員会は四国自然史科学研究センターの理事および職員で組織し、投稿論文の校閲者を選定する。校閲にあたり、校閲者は匿名とするが、校閲者の希望があれば名前を一括して巻末に掲げる。

## ○校閲

受け付けた原稿は、原則として複数の校閲者により校閲される（ただし、採集記録の報告はこの限りではない）。その結果をもとに、編集委員会は掲載の適否を決定する。原稿の内容に不十分な点が見出された場合、編集委員会は投稿者にその旨を知らせ、修正を求める。複数の校閲者が掲載不相当と認めた場合には、編集委員会は理由を付して原稿を投稿者に返却する。掲載不相当とされた原稿の再校閲の要求は、1回に限り認められる。

## ○受理と受理日

受け付けた原稿は、編集委員会が掲載可と認めた場合に受理され、その日を受理日とする。

## ○各年度の掲載原稿の締切日

12月31日までに受理され印刷用原稿が提出された場合、その原稿を当該年度に掲載する。

## ○使用言語と原稿枚数の制限

原稿は和文または英文とする。

和文の原著論文は、表記は現代かなづかい、漢字は常用漢字を用い、「である」調で記述する。句読点には、全角のピリオド「。」とカンマ「,」を用いる。数字は原則としてアラビア数字とする。

原稿枚数の上限は原則として刷り上がり12ページ（刷り上がり1ページ=2000字に相当）とする。極端に長文の場合は、著者と協議の上で分載とするか、あるいは増刊号（Supplement）とすることがある。

## ○原稿の投稿方法

原稿は電子投稿、印刷体の投稿のどちらでも可とする。

## ○送付原稿の部数

印刷体の投稿の場合、原稿は図、表を含めてすべて3部を送付する。そのうち2部はコピーでもよい。ただし、細部の判定を要する写真（染色体分染パターン、顕微鏡像など）を含む場合は、3部とも原写真を添付する。

## ○原稿の体裁

原稿は、縦長A4判用紙横書きとする。1ページに32字×25行とし、周囲には3cmの余白を残す。英文原稿の場合、本文は左揃えとし、両端揃えとしない。

1ページ目に原稿の種別（原著論文、短報、採集記録、総説など）、表題、著者名、著者の所属と連絡先、簡易略題（20字以内）、これらの英文表記、2ページ目に英文要旨Abstract（250語以内）とKeywords（5語以内）、3ページ以降に、はじめに、調査地・材料・方法（以上3項目は必要に応じて書

く), 結果, 考察, 謝辞, 引用文献の順を原則とする。表, 図の説明, 図の原稿をこれに添付する。

英文の原著論文は, 表題, 著者名, 著者の所属と連絡先, Abstract, Key words, Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgments, Literature Cited, Appendix, 和文表記による表題, 著者名, 著者の所属と連絡先, 和文要旨の順を原則とする。表, 図の説明, 図の原稿をこれに添付する。

短報は, 原著論文に準ずるが, 構成は適切なものに変更してよい。また, 和文ではAbstractと謝辞を省略してもよく, 英文ではAbstractとKey wordsを省略する。

採集記録や総説, 資料の構成は自由とする。

#### ○小見出し

区分けの小見出しは上下の1行をあけて中央に書く。さらに細分するときの小見出しは, (1)・・・, 1)・・・と番号を付し, 左端によせる。

#### ○注釈

第1ページで表題や著者の所属に関する注釈などを付ける場合をのぞき, 脚注は原則として用いない。文部省科学研究費補助金などの助成金・補助金を受けたことを注記する場合は, 謝辞の中でその旨(課題番号等)を述べる。

#### ○学名と解剖学用語

動植物名は, 最初に用いた和名には学名を必ず付ける。属名と種小名はイタリック体で表記する。

一般解剖学用語は, 原則として日本解剖学会編『解剖学用語』(丸善刊), または日本獣医解剖学会監修, 解剖学用語委員会編『解剖学用語改訂13版(またはそれ以降の改訂版)』(医学書院)による。

#### ○他言語の文字

漢字・かな以外の人名は通常のローマン体とし, 第1文字のみを大文字とする。引用文献リストでは原則として漢字・かな以外の文字は標準の方式にしたがってローマ字化し, 英語以外はその末尾に英語で言語名を付記する。例: ロシア字の場合「(in Russian)」。

#### ○単位と記号

単位はメートル法による。単位の略記や記号などの例: 【長さ】km, m, cm, mm,  $\mu\text{m}$  など; 【面積】 $\text{km}^2$ , ha など; 【体積】 $\text{m}^3$ , l など; 【重さ】kg, g, mg,  $\mu\text{g}$  など; 【時間】hr, min, sec など; 【統計】CV, d.f., p, F, n, SD, SE, t,  $\chi^2$ ,  $\bar{X}$  など; 【その他】J (ジュール), Hz, %,  $^{\circ}\text{C}$  など。

#### ○表

表は1ページ内に印刷できる大きさを考慮し, ダブルスペースで, 縦ケイを使わない。表は1点ずつ別ページに作成する。表の説明は「表1.・・・」または「Table 1.・・・」とし, 表の上を書く。1点のみでも「表1.」または「Table 1.」とする。本文中のおよその挿入位置を原稿の用紙の右余白に記入する。

(例)

表1. 調査地および調査状況。

調査地	調査日	洞内気温
龍河洞	2013年1月22日	10 $^{\circ}\text{C}$
菖蒲洞	2013年1月30日	12 $^{\circ}\text{C}$
猿田洞	2013年2月6日	9 $^{\circ}\text{C}$

#### ○図

電子投稿の場合は, jpegファイル(ファイルサイズは1メガバイト以上が望ましい)で作成する。印刷体の投稿の場合は, 印刷時の1~2倍の大きさ(長辺の長さ)にして, そのまま製版できる状態に仕上げ, 1点ずつ別ページに作成する。写真プリント提出の場合は, 光沢平滑印画紙に焼き付ける。図の説明は「図1.・・・」または「Fig. 1.・・・」のようにして別ページにまとめる。1点のみでも「図1.」または「Fig. 1.」とする。本文中のおよその挿入位置を原稿の右余白に記入する。

#### ○文献などからの引用

本文中での文献の引用は, 「鈴木・田中(1971)・・・」, 「・・・(Denning, 1952a, b; Weinreb and Sharav, 1964; Erickson *et al.*, 1970)」などとし, 出版年の順に並べる。著者が3名以上の文献の場合には, 第2著者以下を「ほか」または「*et al.*」とする。

## ○引用文献

引用文献リストには、本文中で引用した文献のみを収録し、それらを全て列記する。本文中で「ほか」または「*et al.*」と省略した人名もすべて列記する。配列は著者名のABC順とする。第1著者が同じ場合には、単独の著者名を西暦年順にはじめに置き、第2著者の著者名のABC順であとに続ける。すべて同一著者の場合には西暦年順に置き、同一著者で同一年の場合には西暦年のあとに小文字アルファベットを付けて区別する。著者が3名以上で第1著者が同じで同一年の場合も西暦年のあとに小文字アルファベットを付けて区別する。同一著者名の文献を2編以上続けて列記するときは、2度目以降も「一」で省略することなく、綴りを略さずに繰り返して書く。

引用文献リストは以下の形式を参考にしてつくる。

### (1) 学会誌等の論文

雑誌名は、規定の省略形を用いてもよい。雑誌が巻号からなる場合、巻の数字のみを記す。巻がなく、号のみの場合、号の数字を( )内に記す。中西安男・渡部 孝・清家晴男・門田千恵美・吉澤未来・山崎博継・吉川貴臣・大地博史・三宅由起・野田こずえ。2002. 高知県でのヤマネ *Glirulus japonicus* の生息調査。香川生物, (29) : 33-38.

Nakata, K. 1986. Litter size of *Apodemus argenteus* in relation to the population cycle. The Journal of the Mammalogical Society of Japan, 11: 117-125.

Miyake, S. and Hashiguchi, Y. 1966. A new record for *Protosquilla guerini* (White) from the Tosa Bay, Japan (Crustacea, Stomatopoda). Journal of the Faculty of Agriculture, Kyushu University, 13: 705-709.

### (2) 単行本

森川國康(編)。1995. 石鎚山系自然観察入門。財団法人愛媛県文化振興財団, 愛媛, 296pp.

Findley, J. S. 1993. Bats: a community perspective. Cambridge University Press, Cambridge, 167pp.

### (3) 単行本の章

安部 永。1991. 日本の哺乳類とその変異。現代の哺乳類学(朝日 稔・川道武男, 編), pp. 1-22. 朝倉書店, 東京。

Geist, V. 1982. Adaptive behavioral strategies. In (J.

W. Thomas and D. E. Towell, eds.) Elk of North America, pp. 219-277. Stackpole, Harrisburg.

### (4) Webサイトなど

Webサイトからの情報の引用は、他に同様の情報源がなく、どうしても必要な場合に限る。DOIがあるものは引用文献リストに記載する。DOIがないものは、原則として発行者と発行年が判明しており、PDFファイルのように逐次更新されていないもの場合は、冊子体の文献と同様の形式で引用し、引用文献リストにURLと最終確認日を記載する。発行年が不明の場合や逐次更新されている場合は、本文中に「～である (URL : <http://～> ; 20XX年X月X日閲覧)」のようにURLと引用の日付を明記する。巻末の引用文献リストには記載しない。

その他のオンライン資料でDOIがあるものについての記載例。

Ishii, N. 2016. *Tokudaia muenninki*. The IUCN Red List of Threatened Species 2016: e. T21972A22409515. <https://dx.doi.org/10.2305/IUCN.UK.2016-1.RLTS.T21972A22409515.en> (2024年3月31日確認)。

その他DOIがないWeb上のPDF資料の記載例  
環境省。2019. クマ類の保護及び管理に関するレポート(平成30年度版)。[https://www.env.go.jp/nature/choju/plan/plan3-report/h30report\\_kuma.pdf](https://www.env.go.jp/nature/choju/plan/plan3-report/h30report_kuma.pdf). (2024年3月31日確認)。

## ○校正

著者校正は初校のみとし、原則として印刷ミスについて行う。本文や図、表の変更は極力さける。再校以降は編集事務局が責任をもって行う。

## ○印刷用原稿の仕様

原稿が受理された後、投稿者は受理された原稿の本文、表、図の説明が入った電子データを提出すること。

## ○別刷

50部単位で注文することができ、実費は全額著者負担とする。カラー図版の作成に要する実費は、全額著者負担とする。

## ○規定の改正

この規定の改正は編集委員会の審議を経て行われる。

○編集と原稿送付に関する連絡先

〒785-0023 高知県須崎市下分470-1

新荘公民館内

特定非営利活動法人四国自然史科学研究センター

電話 0889-40-0840

FAX 0889-59-1831

E-mail [sion@lutra.jp](mailto:sion@lutra.jp)

○著作権

著作権は四国自然史科学研究センターに所属する。図表の転載はセンターの許可を必要とする。

○この投稿規程は2024年3月31日より施行する。